

### 3. 熊本 多文化共生農家 調査

# 1. 八代：くまなん協同組合-(株)Sora farm group

## 【八代：くまなん協同組合】

### 八代市国際課との連携した優秀監理団体

：農家だけで、sグループ外国人労働者60～70人

：グローバルグッドでは（特定技能受け入れ）、100人以上、  
グループ外の農家へも派遣している。：全体で100人以上

（K事業協同組合/監理団体が受け入れる技能実習生もかなり多い）

## 【(株)Sora farm group】

①株式会社U、②Mファーム熊本、  
③Hファーム（特定技能受け入れ）、④株式会社GG（配送）

- 主な農産品 \* ビニルハウス（トマト）、セロリ、カリフラワー、キャベツなど
- エコ農産品 \* バイオマス 環境にやさしい肥料を使用。  
\* 食器の材料となる米を栽培している。（モスファーム）：フォーク、スプーン等
- 出荷先 \* 大手の流通 サイゼリア、AEONグループ、YUMEタウン  
\* 農家から集めて出荷している、ネットワーク構築：営業部担当  
\* 県外の農家：鹿児島 大根を仕入れている。  
\* 外国人労働者の国の農産物を育てること

# 1. (株)Sora farm group



## 2.合志：業務推進協同組合-植木・宇城等の農園

### 【合志：業務推進協同組合】

#### 九州全体をカバーする **農業専門の監理団体**

- ：200人の外国人労働者を農業・酪農分野へ派遣している。熊本、鹿児島、長崎、大分
- ：カンボジア、フィリピン、ベトナム（中部—ダナン）など
- ：農家や外国人の特性・要求を詳しく把握している
- 問題を未然に防止できるし、多文化共生を実現する

### 【合志スイカ・宇城露地野菜・八代トマト農園】

#### ■合志スイカ農園

- \* 2人ベトナム（男）
- \* ビニールハウス栽培：ハウス約50棟
- \* ベトナム食材の栽培（農閑期）可能性あり
- \* 出荷→すべて「大同青果」

#### ■宇城露地野菜農園

- \* 2人カンボジア（女）
- \* 熊本の市場規模では販路がなく、東京など大都市が市場となる。
- \* キャベツ(3ha)+ブロッコリー(3ha)+その他(2ha)

#### ■八代トマト農園

- \* 5人：カンボジア・フィリピン（女）
- \* トマトビニール栽培、お米、大根など栽培
- \* すべて、大同青果へ出荷（トマトも）

## 2.合志スイカ：K農園



### 3. 氷川露地野菜：S農園



## 4.八代トマト農園：N農園



## 5. 植木：熊春協同組合 -V農園（菊池）

### 【植木：熊春協同組合】

タイとの文化交流をしながら受入れる監理団体

：菊池・玉名・阿蘇・八代などの農家  
：タイからの受入れ、200程度の農家

### 【菊池：V農園】

#### ■ 主な農産品

：有機農業ごぼう、さといも、  
米（あいがも農法）

○1月～8月：ごぼう →生協へ

○9月～：サトイモなど →市場へ

#### ■ JICA協力隊OB

：バングラデシュ、インドコルコタ国境（酪農）

■ 出荷先は、主に「生協」、  
9月以降の農産物は「市場」

■ タイの技能実習生



## 6. 植木：I生姜農園

- 主な農産品
  - ：生姜、生姜活用したクッキー製造販売  
（うみこえジンジャー）
- ビニルハウス栽培：ハウス20棟程度  
出荷→すべて「大同青果」へ  
→規格外品は、「植木青果市場」へ
- 出荷時期：3月～8月まで、  
その準備は：10月～12月  
：ハウスごとに、植える時期、収穫時期  
→ 順番を決めて栽培
- 有機肥料、低農薬
- 外国人労働者：インドネシア人  
：日本語は80%程度理解、以前はベトナム
- これから、Local Fair Tradeを、  
→ 地域の村・町（公民館単位）で、  
認証をすること  
→ 地域交流に繋がると思う



## 7. 阿蘇 高森町：堀農園

### ■ 主な農産品

：ミニトマト（5種類）

：最近、ドライミニトマトも

### ■ 販売先：千元の南阿蘇を中心に

：堀農園の直売所も（高森町）

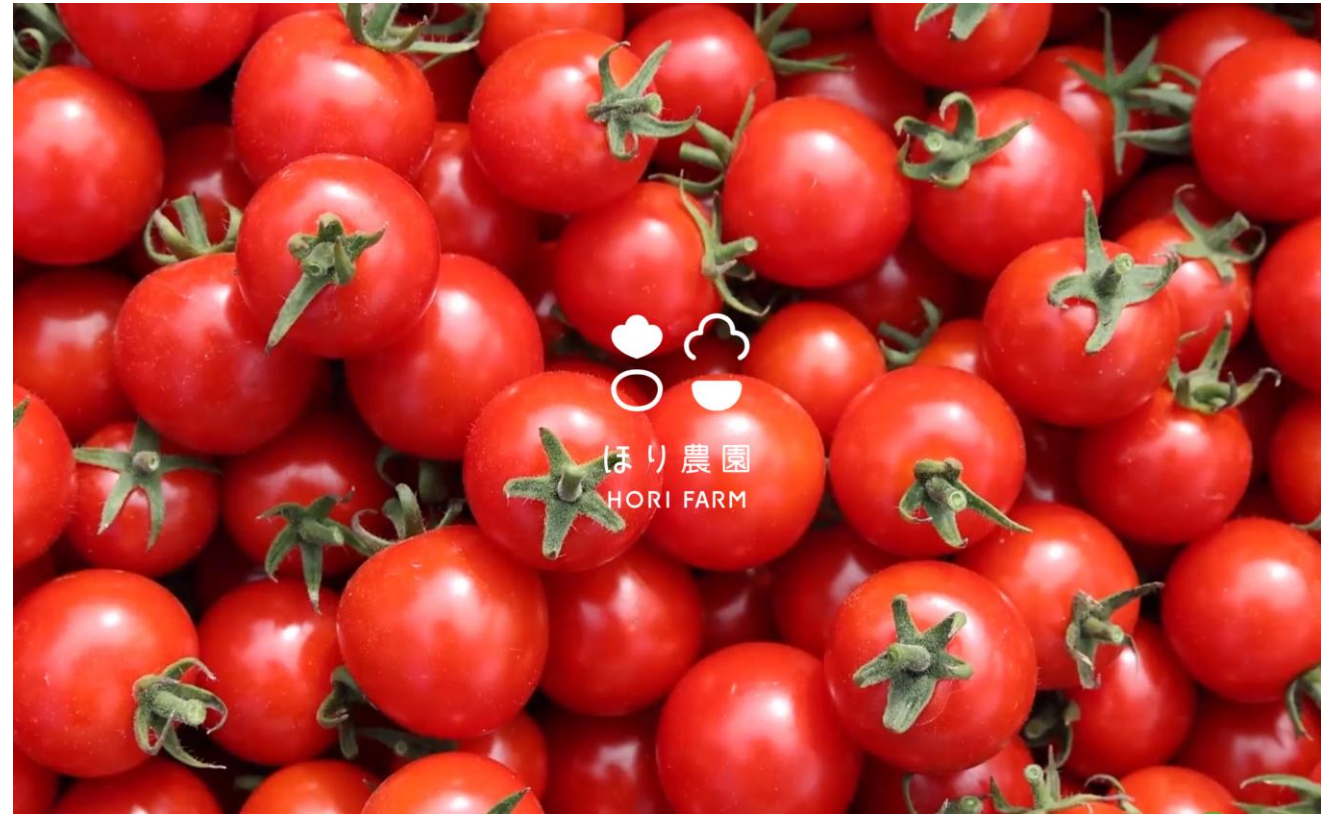
### ■ 環境にやさしい

：土の微生物を生かす肥料を利用

### ■ 外国人労働者：カンボジア（技能実習生）

：JICA海外奉仕（カンボジア）

→カンボジア語の通訳が可能



## 8. 植木：百草園

- 主な農産品  
：季節の野菜、玄米うどん、卵、小麦粉等
- 消費者の会「千草会」  
：直接お届け
- 受賞：農林水産大臣賞など（2014年）
- 環境にやさしい  
：有機JAS認証・無農薬  
：畑の多様性  
：種→遺伝子組み換え無し強調
- 外国人労働者：ナイジェリア  
（以前、ベトナム人も）



## 9. 菊池：イスル有機農園

### ■ 主な農産品

：有機えごま、有機お米、有機里芋  
 （えごまは夏スタート 11月初旬収穫）

：菊池水源産「えごま油きらり」製造販売

### ■ 出荷先：山田青果（菊池地域）

### ■ 環境にやさしい

：土の微生物を生かす肥料を利用

### ■ 多文化家族で農園経営

：韓国・日本人夫婦

：近隣地域（菊池水源交流館周辺）

外国人労働者を受け入れている農家との  
 連携も可能。YouTubeチャンネル運営。

### ■ えごまの場合、

：韓国で「えごま葉」を食用として栽培。

：収穫時期が決まっていて、  
 年中、安定的な提供は厳しい。



## 4. Local FairTrade 認定

ガイドライン

① 多文化共生農家

② 多文化食堂・SDGs会社

# ローカル認定 ガイドライン 勉強討論会

1次(3/2)・2次(5/29)

熊本学園大学 FairTrade 研究会 5/12 Café 10周年

**Café FELICHA**  
フェリッチャ・とともに

**2024 世界 Fair Trade -Day月間**  
持続可能な多文化共生 農村づくり @熊本学園大学

5/7 火～30 木 インドネシア人が働く多文化共生 農家：池福園 生姜茶 (種木)

- 環境にやさしい (有機肥料・低農薬)
- 多文化共生農家で栽培された生姜を使った 韓国風の生姜茶!!

5/23 木 ネパール料理(Local FT) × ネパール珈琲(Global FT) 11～14時

- ネパールシエフが作るカレー：エスニック食、サンジ sanji
- 熊本珈琲フェアトレード・コーヒー：WITH「ヒマラヤの黒り」
- ★Local+Global, FairTrade

5/29 水 Local Fair Trade 講演会 (ローカル認定) 15:30～

- 持続可能な農村・多文化共生地域づくり、熊本ローカルフェアトレードの挑戦 ～八重山諸島(沖縄)のローカル認証から学ぶ～
- 講師 コラコラ (coral collabo) 事務局 花谷まゆ 様 (主催：熊本学園大学 海外事情研究所)

5/31 金 Fair Trade 珈琲 試飲会 / PPT・Board リレー 終休み時間

- Global Fair Trade 珈琲 試飲会
- Local Fair Trade 「PPTボード」リレー：熊本学園大学 学生食堂前の広場

○主催：熊本学園大学フェアトレード研究会  
○後援：NPO 東アジア共生文化センター  
熊本学園大学 14号館2階 22cobaoka@kug.ac.jp

熊本学園大学付属海外事情研究所2024年度第2回研究会

## 持続可能な農村・多文化共生地域づくり、 熊本ローカルフェアトレードの挑戦 ～八重山諸島(沖縄)のローカル認証から学ぶ～

はななに  
講師：花谷まゆ 氏(コラコラ 事務局)  
日時：2024年5月29日(水)15：30～17：30  
会場：熊本学園大学14号館2階フェアトレードカフェFELICHA  
締切：2024年5月28日(火)12：00 ※対面のみ

参加  
無料



〈学歴及び職歴〉  
1982年 石川県生まれ  
2005年 東京農業大学 国際食糧情報学部卒業  
2008年 石垣島の野菜農家に嫁ぎ、農業の手伝いを始める (慣行農業)  
2017年 子供の喘息をきっかけに、有機農業に農法を転換  
2019年 自然にやさしいローカル認証を作るべく「農」「飲食」「宿」の事業者でガイドライン作りを始める。  
2021年 さんごにやさしい八重山ローカル認証コラコラ (coral collaboration) をスタート  
2022年 環境省、地域循環共生圏づくりプラットフォーム 事業採択  
2024年 夫婦で花谷農園を経営しながら、コラコラ認証の普及活動に取り組む。

熊本の農村で働いている外国人と、彼らを雇用している農家が共生・共創する仕組として、地域のエスニックショップやSDGsショップを拠点にした地域循環共生圏の形成、すなわちローカル単位のフェアトレードが定着する必要がある。  
今回の研究会では、このようなローカル・フェアトレードを実現させるためのガイドラインの先行事例といえる、八重山諸島(沖縄)のローカル認証ガイドラインに関する具体例を探っていきたい。コラコラ(coral collabo)というユニークなローカル認証制度を定着させ、農業・飲食・宿泊ガイドラインを通じて地域循環共生圏プラットフォームを生み出した石垣島の花谷まゆ氏の講演からローカル認証ガイドラインへの示唆をうかがう。  
[Coral Collabo | コラコラ <八重山の自然を守るローカル認証>](https://coracolla.wixsite.com/ishigaki)

【お申し込み方法】  
氏名(フリガナ)・電話番号・メールアドレスを記載のうえ(kaigai@kumagaku.ac.jp)までお申込みください。  
※新型コロナウイルス感染症の状況により、開催方法を変更する場合がございます。

問い合わせ先  
熊本学園大学付属海外事情研究所 (担当：学術文化課)  
〒862-8680 熊本市中央区大江2-5-1  
Email: kaigai@kumagaku.ac.jp TEL: 096-364-8731 (直通) / FAX: 096-364-5201 (専用)  
[月～金曜日] 8:45～17:15 (12:30～13:30) は除く



# ローカルFT、流通システム勉強会

熊本学園大学大学院 国際文化研究科 2024年度 ゲスト講演

多文化共生・共創への道探し

## 持続可能な多文化共生くまもと農村づくり (3)

：熊本の多文化共生有機農園「百草園」の流通システムから学ぶ

はざま つかさ

講師：間 司 有機農園「百草園」代表

日時：2024年7月28日(日)午後2時～

場所：熊本学園大学 14号館 2階フェアトレードカフェ



持続可能な多文化共生くまもと農村への道探しの一環として、熊本の多文化共生有機農園「百草園」の流通システムに関する事例を通じて、多文化共生農家とエスニック・SDGs ショップ(消費者)との連携、すなわち「地域循環多文化共生圏」を作っていく道を探ってまいります。

### 【履歴・受賞歴】

- 1982年 熊本市植木町に新規就農として移り住み、露地栽培での有機無農薬での野菜作りと平飼いの産卵養鶏を営んでいる。
- 1986年 「千草会(ちくさかい)」という消費者の会が発足、消費者に直接届ける「提携」食卓とそれを囲む人が見える生産者と、畑や四季、それをつくるお百姓さんが見える消費者がとてつくっていく関係を「提携」。消費者の会「千草会」とともに、料理講習会、田んぼの生き物調査などの交流を年に数回行っている。
- 2000年 有機JAS認証を取得(直接会う事のできない消費者への安心と信頼の証)
- 2014年 熊本県農業コンクール・食と農部門優秀賞受賞、農林水産大臣賞 受賞
- 2014年 農林水産祭・日本農林漁業振興会会長賞 受賞
- 最近は、○畑の多様性追求：季節の作物を年間50品目以上作り回り、畑の多様性をつくることで害虫や益虫のバランスを保っている。
- 環境カウンセラーとしての活動：百草園の間置子は環境省の環境カウンセラーに登録されており、「環境と農業」「リサイクル」等の視点から活動している。
- ベトナム・ナイジェリアからの移住農業労働者と多文化共生農産品を共創(ベトナム人は最近帰国)
- レストランや店舗との有機流通システムを構築(生協なども連携)

■問い合わせ先：熊本学園大学大学院国際文化研究科(担当：申研究室)

〒862-0971 熊本市中心区大江2-5-1 熊本学園大学大学院 国際文化研究科申研究室

TEL：096-365-5162(内：1317) Email：[shinmj@kumagaku.ac.jp](mailto:shinmj@kumagaku.ac.jp)



## 2次討論会からの要求

- ①「**当事者性**」：下から(当事者)のガイドライン
- ②ガイドラインの**原則**設定：「多文化 F2F (Farm to Fork)」
- ③ガイドラインの**簡潔化**：「点数制」→「OX・指向」

## 当事者からの聴取会(6/17~7/22：計6回)

- ①環境にやさしい基準→環境にやさしい「持続可能な**価格**」基準
- ②「**規格外品**」捨てない→エスニック食堂、規格不選別で買い取る

A：多文化共生基準

B：環境にやさしい持続可能な農村基準

其々3個以上クリア

# A.多文化共生農家

## 1.持続可能な多文化共生基準

### ○生産

- ◆衛生上問題になる農産物以外は、**見た目が悪いという理由で**農産物を区別せず、納品する。
- ◆農閑期に、**多文化食材**を栽培する。
- ◆外国人労働者も**自分が生産した農産品がどこに納品、消費**されているか確認できる。（一部）

### ○生活

多文化共生は生産現場だけでなく生活現場でも具現される必要がある。安全な生活、安定的な住居空間と共に、公共交通の利用が不便な農村地域での移動手段がきちんと備えられる必要がある。

- ◆4.5㎡以上の住居空間と**プライベート空間**を確保している。
- ◆居住空間にWiFiの設置、あるいは**sim card**を提供している
- ◆スーパーなど近隣**生活関連の地図**を提供している。
- ◆移動手段として、**電動自転車**を提供している。

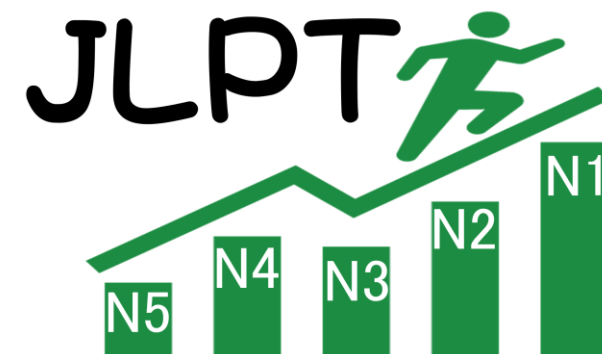


# A.多文化共生農家

## 1.持続可能な多文化共生基準

### ○交流

- ◆農業従事者の**誕生日パーティ**あるいは月1回程度の**食事会**を行っている。
- ◆農業従事者が一緒に年1回以上**旅行**に行く。
- ◆**オンライン日本語教育**やスマートフォンで日本語学習ができるように案内している。
- ◆外国人農業従事者は、**地域の交流会やマルシェ**等のイベントに年1回以上参加している。
- ◆**日本人農業従事者**は、多文化・多言語の教育やイベントに年1回以上参加している。



たぶんかきょうせい こうりゅうかい  
多文化共生交流会

# A.多文化共生農家

## 2.持続可能な環境にやさしい基準

### ○しない

- ◆栽培のために使った水やエネルギーなどの無駄遣いにならないように、味や品質に問題がなければ**規格外の農産物を捨てない**。
- ◆人体リズムを破壊し、自然を汚染させる**遺伝子进行操作**した農産品栽培をしない。

### ○減らす

- ◆人体や農産物などに悪影響を及ぼす**農薬を減らしている**。
- ◆土壌の微生物活動を低下させ、土壌の肥沃性を損ない、地下水汚染にもつながる**化学肥料を減らしている**。

### ○使う

- ◆病虫害の発生を抑制し、雑草の生育を抑制する**点滴栽培**等を行っている。
- ◆農薬や肥料を利用の時、**栽培履歴を記録**する。
- ◆農作物の生育と土壌の健康を促進し、病虫害の発生を予防するために、**田畑周辺の排水口の清掃**を定期的の実施する。



# B.多文化食堂・SDGs会社

## 1.持続可能な多文化共生基準

### ○ 多文化食堂

- ◆多文化共生農産品を利用したメニューを開発している。
- ◆エスニックコミュニティを活性化するための活動やイベントを開催している。
- ◆多文化の子供たちにルーツを持っている国の文化や言語教育を実施している。
- ◆日本人に多文化・多言語関連の活動と教育を行っている。

### ○ SDGs会社

- ◆多文化共生農家（ローカル・フェアトレード関連農家）の農産品を定期的に購入している。
- ◆日本人職員は、外国人職員と地域の多文化共生イベントに年1回以上参加している。
- ◆外国人職員の日本語向上のための機会と便宜施設を提供している。
- ◆日本人職員は、多文化・多言語教育とイベントに年1回以上参加している。



# B.多文化食堂・SDGs会社

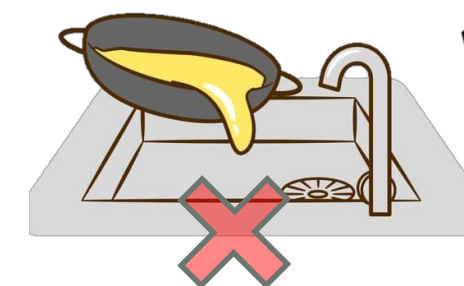
## 2.持続可能な環境にやさしい基準

### ○ 多文化食堂

- ◆使用済みの**油を排水口に流さない**。
- ◆**化学調味料**の使用を減らす。
- ◆**生ゴミ**の量を減らす。
- ◆使用済み**油の回収**をリサイクル業者に頼んでいる。
- ◆微生物の力で生ごみなどの有機物を分解して堆肥に変えるため**コンポスト**を使う。
- ◆**天然塩・無添加調味料**の使用を増やす。

### ○ SDGs会社

- ◆使用しない電気製品の電源を切り、**不要な照明**を消す。
- ◆**ペーパーレス**推進を遅らせるファクスを使用しない。
- ◆**梱包材**の使用を減らす。
- ◆**エコマーク**が表示されている製品を使う。
- ◆**リサイクル**可能な資源を最大限再利用している。



## ■ ローカル・フェアトレード認証ラベル（案）



七つの花  
：虹色の多文化

Test用HP

<https://localft.com/home>